

日本キリスト教会大阪北教会

2017年10月22日(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙6章5節～9節

06:05 奴隷たち、キリストに従うように、恐れおののき、真心を込めて、肉による主人に従いなさい。 06:06 人にへつらおうとして、うわべだけで仕えるのではなく、キリストの奴隷として、心から神の御心を行い、 06:07 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。 06:08 あなたがたも知っているとおりに、奴隷であっても自由な身分の者であっても、善いことを行えば、だれでも主から報いを受けるのです。 06:09 主人たち、同じように奴隷を扱いなさい。彼らを脅すのはやめなさい。あなたがたも知っている通り、彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさないのです。

<説教> 『神は人を分け隔てなさない』

◆私が最近、改めて、感謝をもって思い知らされましたことは、わたしたちが信じている神様は、聖書が証している通り、常に私たちを見ていて下さるという事、私たちの祈りを全て聞いて下さるという事、そして私達の心中の思いを全て知っていて下さるということ、そして善き時に、その善き御心を実行なさって下さるという事であります。私は先週は月曜日から木曜日まで大会のために東京に行ってまいりました。そして受けた益は数々あるのですが、今、上で申しましたことを、私が予想だにできなかった仕方で、神様はなさって下さるという事を経験いたしました。聖書の証しは全て真実であります。

◆さて新約聖書は四福音書を通してイエス様の生涯、伝道活動を描いております。そしてその他の文書はイエス様に会った人々がそのイエス様の御愛を証しする手紙などで構成されております。そして新約聖書の約三倍の分量があるのが、この旧約聖書であります。旧約聖書の冒頭の書はご存ように「創世記」であります。天地創造が書き出しであります。それに続くのが「出エジプト記」です。この書には旧約聖書の核になる物語「出エジプト」の事が記されております。「出」とは脱出の事であり、解放の事であります。当時のエジプト帝国の奴隷であったイスラエルの民を神様は解放し給うたのです。それはイスラエルにとっては予想だにできなかった出来事でありました。これが「出エジプト」であり、イスラエルの歴史的救済において実証された神様の真実であります。そして、この出来事が旧約聖書全巻の精神になっている出来事なんです。このことが実際起こらなければ、出エジブ

トがなければ旧約聖書は魂の抜けた空文になってしまいます。

◆アメリカにおけるリンカーン大統領による「奴隷解放宣言」は1862年9月の事でしたが、「出エジプト」と云う奴隷解放は紀元前1300年の頃のことです。従っていわゆる「モーセの十戒」と言われるものは、神様が為さった「奴隷解放宣言」なのです。『十戒』は「戒め」という字が付いていますので、人を拘束し、縛り付けるイメージにつながりますが、「十戒」は神様による「解放宣言」です。イスラエルの民は、「十戒」を溢れる感謝をもって、心底から「アーメン」と唱えて受け止めた、神様の恵みの御言葉なのです。この十戒の精神を実行することに努力する国は、御心に適う「善良な」国だと思うのです。

◆それで東京から帰りましてインターネットを見ていますと「善良国家指数」というのが目に留まりました。過去2年間にわたり、世界各国の種々のデータを集め、その国が如何に「善良」であるかという観点で評価するのです。「善良な国」とは「他国に貢献している国」のことです。この「善良さ」という事を私は「十戒の精神に叶う」という風に受け止めました。つまり、国内でも国外に対しても、人を人として大切に思い、それを実行する事と云えばよいでしょうか。それで、第1位はアイルランドで、日本は25位という事でした。私は、この善良さランキングでは、全ての国が1位であってほしいと思います。今日は衆院選挙の日ですが、善良な議員、善良な党が、是非選ばれて欲しいと思います。

◆ところで神様の恵みを経験していない時の人間は、時に傲慢に振る舞います。自分が一角の者であるかのように振る舞います。しかし、それは誤解、自己誤認であって、人はそれ程の者ではありません。聖書の神様は、真に貶められた者を、掛け替えなき者として顧み給のです。今日の箇所9節以下にこう記されています。「主人たち、同じように奴隷を扱いなさい。彼らを脅すのは止めなさい。あなたがたも知っている通り、彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさらないのです」と。この言葉の背景には、パウロ自身の経験があります。初代のキリストたちを迫害していた時のパウロのあの傍若無人な振る舞いです。しかし、驕れるパウロは、神様の一撃のもとに、復活の主イエス様の一撃によって打ち倒されました。人間は誰も神様を侮ることなどできないのです。

◆ですから私達はありとあらゆる人間関係において、「妻と夫」の関係でも、「親と子」の関係でも、今日の箇所における「奴隷と主人」の関係でも、常に心掛けるべきことは、これら一連の勧告の冒頭において言われた事です。5章21節です。つまり、「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合うこと」です。この一事を心得ておれば、それで十分あります。そして、この「畏敬」における「畏れ」は、底なしの地獄からの解放をもたら

して下さった神様への畏れ、死んだ者を甦らせて下さった主イエス様への畏れであります。そしてこの畏れには、限りない感謝と喜びと讚美が必ず伴うのです。

◆私たちのこの主の日の礼拝は、聖日礼拝は、日曜礼拝は、このキリストへの畏れという、私たちの原体験の想起・回復へと私たちを引き戻してくれます。解放の想起です。本当に人生、何時何が起きるかしれません。先日来報道されております「高速道路」に落とされたタイヤに乗り上げて命を落としたお母さんとお嬢さんがありました。何とも気の毒です。昨日も炊き出しの食材がフードバンクから届けられたのを整理して、冷蔵庫・冷凍庫に納める作業をしていた時に話したのですが、昔の東京時代の教会のメンバーで、冬場、柏木教会で臨時中会があり、それに出席する時、自転車に接触して倒れて頭を打ち、身体障害者になった兄弟がおりました。肉体的には、このような惨事が起ります。しかし、御独り子イエス・キリストをさえ惜しまず、死に渡して下さった父なる神様は、万事を給わりますし、万事を益に変えて下さいます。このキリスト・イエスにおける神様の御愛から私たちを引き離し得る惨事は、この世に一つもありません。

◆パウロが今日の勧めを為す時、その心にあった事は、この様な経験だったと思うのです。その上でパウロは勧めているのです。「6:05 奴隷たち、キリストに従うように、恐れおののき、真心を込めて、肉による主人に従いなさい。6:06 人にへつらおうとして、うわべだけで仕えるのではなく、キリストの奴隷として、心から神の御心を行い、6:07 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。6:08 あなたがたも知っているとおおり、奴隷であっても自由な身分の者であっても、善いことを行えば、だれでも主から報いを受けるのです。6:09 主人たち、同じように奴隷を扱いなさい。彼らを脅すのはやめなさい。あなたがたも知っている通り、彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさらないのです」と。主イエス・キリストは常に全ての人、一人一人と共におられるのです。教会においても、またそれぞれの持ち場に帰って行っても、この一事を肝に銘じて過ごしましょう。「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」という勧告です。

◆今日、礼拝後に昨年12月2日に召された安藤輝男兄の納骨式を行ないます。その時に一緒に歌おうと思っている讚美歌があのアメージング・グレイスです。作詞はロンドン生まれで、元奴隷船の船長だった、ジョン・ニュートン牧師です。451番です。歌詞は実に素晴らしいものであります。そして、メロディー、曲なのですが、実はこのメロディーは、アメリカ南部の労働者たち、つまり奴隷たちが歌っていたアメリカ民謡のメロディーだと言います。今やこのアメージング・グレイスは「アメリカの第二の国家」と言われ

るのですが、奴隷も主人も、この讃美歌を自分の人生の希望の歌として歌ったのです。神様の奇しき導きというほかありません。奴隷と主人、主人と奴隷、時にこの世での身分は違っても、両者の唯一の希望は、アメージング・グレイス！奇しき恵み！なのです。実は、このアメージング・グレイスは、安藤輝男兄が御自分の葬儀の始めと終わりに流してほしいと希望された愛唱讃美歌なのです。その曲を「奴隷と主人」という、使徒パウロの勧めの言葉と共に、今日歌うようになるというのも奇しき導きと言わざるを得ません。

◆時に、限りあるこの世においては、全ての矛盾、相剋は一挙に解決することはできません。そして、自分自身の不徳と愚かさによって、悲しみの種をまいてしまった事も、取り返しがつきません。しかしながら、主イエス・キリストにおける神様のアメージング・グレイス、奇しき恵みは崩れる事はありません。この主イエス・キリストにおける神様のアメージング・グレイスが、万物を貫き、万物を包み、導いていて下さるのです。それこそ、5節「この身はおとろえ、世を去るとき、よろこびあふるる、御国に生きん」とあります。原詩にはこういう節もあります。「大地はやがて雪のように溶け、太陽も光を失う時が来ます。しかし、私を地上において招き給うた神様は、永久に私のものです。」新聖歌268はこう歌います。“悲しみ尽きざる 浮世にありても 日々主と歩めば 御国の心地す ハレルヤ！ 罪咎 消されしわが身は 何処にありても 御国の心地す”。

◆今日は衆議院議員選挙の日です。いずれにせよ、アメリカであれ、日本であれ、北朝鮮であれ、中国であれ、キリストに対する畏れが全てです。キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合う社会が成って行く事を願って、歩んでまいりましょう。

◆お祈り致します。

憐れみ深い主イエス・キリストの父なる神様。あなたは、私たちがどのような捕らわれの中に、闇のなかに落ちるにもせよ、そのような者をお見捨てになることなく、解き放ってください。あなたはその事を為さって、その憐れみを、十戒を通して、パウロの勧告を通して、そして何よりもイエス様を通して、私たちに示して下さいました。どうか、そのあなたの御憐れみ、御恵み、御愛を、私が魂に刻み付けて、これからの歩みを為して行くことが出来ますように、これからも私たちと共に居まして、私たちに先立ち給うて導いて下さい。どうか、今日の選挙の結果が、少しでもあなたの御心に近づくものと成らしめて下さい。この祈り、主イエス・キリストの御名を通して、御前にお捧げいたします。アーメン。